

新刊紹介

防菌・防黴剤の開発と展望

西原 力（大阪大学大学院）・高麗寛紀（徳島大学）監修／

発行：(株)シーエムシー出版／〒107-8440東京都港区赤坂4-1-24／TEL03-3293-2061／

B 5 版／ 370頁／価格70,000円（税別）／2005年 3 月18日発行

本書は冒頭で防菌・防黴（剤）が無差別に細菌やカビを殺す意味の殺菌・殺黴（剤）と異なり、微生物をコントロールして微生物による害のない製品や環境をつくる微生物制御技術であることを踏まえて防菌防黴剤と使用法・考え方を詳しく解説している。本邦のトップクラスの防菌・防黴関係者22名の執筆による労作である。その構成は「はじめに」で防菌防黴剤のリスクとリスクアセスメント、リスク管理に触れながら防菌防黴剤の必要性を薬剤、機器や設備などのほか、人の重要性、さらに微生物との共存に及び監修者の防菌防黴に対する思い入れが感じられる成書である。その各論の目次は以下のとおりである。

第1章総論－防菌防黴剤の開発動向－

第2章防菌防黴剤（原体）の現状

第3章防菌防黴剤の製剤化技術

第4章防菌防黴剤の応用展開

第5章H A C C P と防菌防黴剤

第6章環境リスクアセスメントと防菌防黴剤

次に各論を見ていくと、第1章総論－防菌防黴剤の開発動向では、防菌防黴剤の歴史と抗菌加工、工業製品の微生物劣化と抗菌試験方法、防菌防黴剤の用途、目的および利用形態および防菌防黴剤の開発動向がまとめられている。第2章防菌防黴剤（原体）の現状では、有機系防菌防黴剤と無期系、天然系および光触媒系原体について、第3章防菌防黴剤の製剤化技術では、水和剤をはじめとして可溶化製剤、インターカレーション、マイクロカプセル、水溶剤およびくん蒸剤の6種類について、第4章防菌防黴剤の応用展開では、繊維、木材防腐・防かび、塗料（室内・屋外）、紙・パルプ、金属加工油、医薬品、化粧品、プラスチックの抗菌加工、セラミックスへの抗菌機能の付与、医療機器・器具の滅菌・消毒、食品（防腐、日持ち向上）、食品製造環境、医療環境、外環境、船底塗料、洗剤（洗濯、住宅、台所）及び冷却水の16分野についての事例が掲載されている。また、5、6章は前章までと異なりソフト中心の記述である。まず5章はH A C C P と防菌防黴剤と題し

て食品安全とH A C C P、H A C C PとマネジメントシステムH A C C Pの基礎としての食品衛生新5 Sおよび食品産業における防菌・防黴について、第6章の環境リスクアセスメントと防菌防黴剤では、生態リスク評価、わが国での規制（化審法、化管法）、欧州および米国におけるBiocideに関する法規制、遺伝子組み替え実験領域における不活性化について記述している。

本書は冒頭から読み進める本ではないが、防菌防黴剤についての監修者の思い入れのほし
がき、第1章総論および5章H A C C Pは是非目を通してほしい。その他は必要に応じて
関係分を読んで頂ければ最新情報が得られること請け合いである。ただ、残念ながら少々
値が張るので個人ではなく組織としては是非蔵書に加えてもらいたい防菌防黴剤の成書で
ある。

（学会事務局）